

リニア入札不正容疑

写真は朝日新聞 12 月 10 日 1 面。関心のあるテーマなので、とりあえず記事を一部書き写しておきたい。

リードから—JR 東海が進めるリニア中央新幹線建設をめぐる、名古屋市の非常口新設工事の入札で不正があった疑いがあるとして、東京地検特捜部は 8 日夜、偽計業務妨害の疑いでゼネコン大手の大林組本社（東京）などを家宅捜索した。リニア中央新幹線は総事業費 9 兆円の巨大プロジェクトで、特捜部は関係者から任意で事情を聴くなどして全容解明を進める。

リニアは JR 東海が 2027 年に品川—名古屋間の開業、最速で 37 年の新大阪延伸を目指している。JR 東海への低利融資として国債発行で集めた財政投融资も使う。

問題の工事は、16 年 4 月に大林組と戸田建設（東京）、ジェイアール東海建設（名古屋市）の共同事業体(JV)が発注した「名古屋城非常口新設工事」。名古屋城南側の官庁街にあった公園敷地を掘削し、非常時に地上に避難するための階段や換気・消音施設をつくるもの。深さは約 90 ㍎、直径は 40 ㍎で、工期は 19 年 9 月末までを予定している。JR 東海によると、リニア建設をめぐるのは、すでに 22 件の工事契約を締結。大林組が参加する JV は、名城非常口のほかに 15 年 10 月～16 年 11 月に、品川駅や名古屋駅などの建設工事 3 件を受注しているという。

社会面にも、強制捜査「寝耳に水」、リニア入札不正疑い 巨大事業に激震、という大きな見出しが並ぶ。リードから—大阪府枚方市の官製談合事件で社長が引責辞任してから 10 年。スーパーゼネコン大林組に、不正な入札の関係先として、再び強制捜査のメスが入った。舞台となったのは巨大プロジェクトでもあるリニア中央新幹線をめぐる工事。関係者には動揺が広がった。

問題の名城非常口の工事現場は、よく利用する「自治センター」と愛知県警の間のところだ。先日、名古屋地裁に行くときに通った。リニア工事感を徹底的に解明してほしい。

(2017 年 12 月 11 日)

